

# 明日への扉

アスヘノトビラ

令和元年10月号

京都市立春日丘中学校

## 道徳通信

\*\*\*学校教育目標\*\*\*

『確かな自立・志ある貢献』

今年で21回目となる春日丘フェスティバル。それぞれのクラスが、来てくださったお客様に、喜んでもらいたい！という思いで取り組みました。準備期間も含め、フェスティバルでは、本当にたくさんの“笑顔”を見ることができました。クラスのみんなと楽しそうに準備をする姿、お客様を笑顔で迎えるキャストの姿、クラスイベントで子どもたちと笑顔で話す姿など、ここには書ききれないほど、みなさんの素敵なお顔がありました。学校中の人们が「人のために」一生懸命に取り組むことができたフェスティバルでした。3年生にとっては最後のフェスティバルでしたが、きっとこのフェスティバルで経験したことが、みなさんにとって大きな財産になるでしょう。なかなか思い通りにいかず、悩んだこともあったと思いますが、それがみなさんをひとまわり大きく成長させてくれたのだと思います。そして、今年の素晴らしいフェスティバルを1・2年生が来年以降も引き継いでくれることを楽しみにしていてください。3年生から1・2年生へ、しっかりと“バトン”がつながれたことを信じて…。



\*-\*-\*-\*-\* 授業の様子を紹介します \*-\*-\*-\*-\*  
**“席替え”～ローテーション道徳より～**

フェスティバルが終わった10月半ばから、ローテーション道徳を行っています。これまで道徳の授業は担任が授業をしてきましたが、ローテーション道徳では、学年の担任・副担任の先生方が交代で、各クラスで授業をします。毎回授業を行う先生が違うので、今までの道徳とはまた違った雰囲気に感じられますね。ローテーション道徳も今回で3回目！今回はその中から、石塚先生の授業の内容を紹介します。

授業のテーマは「席替え」です。席替えが終わった後に、主人公が席替えのやり直しを提案しました。主人公は、なぜ再度席替えをしようと提案したのでしょうか。みなさんが考える“公平・不公平”とは。自分勝手な考え方や行動をなくすためには、自分自身がどのように考えて行動すればよいでしょう。みなさん自身はそのような“自分勝手”な行動や発言をしていませんか？

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・今回の授業を終えて、改めて自分の行動を見つめ直すことができた。良い機会になったと思う。これからの行動に心がけたい。
- ・自分勝手な考え方や行動をなくすためには、思いやりと歩みよりもしっかり考えることだと思う。この授業を通して学んだことを行動にうつしていきたい。
- ・自分勝手な人がいなくなるには、自分だけの意見じゃなくて、周りの意見を聞くことが大切。
- ・私も自分勝手な方で、みんなに迷惑をかけていたりするので、やめようと思った。まわりの人にも注意しようと思った。
- ・相手のことをよく知り、思いやり、自分を客観的に見ることが大切だと思った。これからは気をつけたい。
- ・周りのことを考えることが大切だと思う。また、周りの人と理解し合うことも大切だと思った。



## “ごめんね、おばあちゃん”

今回の道徳では「家族の一員としての役割」について考えました。いつも忙しい父・母に代わって面倒を見てくれていたおばあちゃん。年老いて、今までできることができなくなっていました。主人公の「僕」はそんなおばあちゃんに対して、つい、きつい言葉を言ってしまします。そんなとき、おばあちゃんが骨折をし、入院をしました。さらに弱弱しくなっていくおばあちゃん、おばあちゃんのいない家の静けさ…。おばあちゃんに対する態度が悪かったなど「僕」は気づきました。家族に反抗したことや言い返したことはありますか?と聞くとあると答えた人が半分以上でした。素直になれない、口うるさく言われるのは嫌だ、など思いはいろいろです。しかし、みなさんが最後には、家族を大切にしたい、家族にも「ごめんね。」「ありがとう。」を言えるように努力する、と口にしていました。家族は一番身近な存在であるのに、なかなか大切さやありがたさに気が付きにくいですが、いつでもみんなの一番の味方です。家族を思いやる気持ちを決して忘れないでください。そして、感謝の気持ちを言葉に出して伝えられるといいですね。

『ワークシートより（授業の感想）』

- ・自分のために家族がしてくれた優しさに気付いて、その人に感謝の気持ちをもてるようにならうと思った。これからは自分ができることから実践して、周りの人を支えられるようになりたい。
- ・家族のためを思って動いてくれるおばあちゃんにはとても感心する。おばあちゃんの思いをくんで、自分にできることを考えたいと思う。
- ・僕もおばあちゃんにきつく言ってしまったことがあったので、自分が後悔する前に謝りたいと思った。主人公の気持ちもわかるけど、おばあちゃんを悲しませることはしたくない。



## “受け継がれる思い”

おもてなしの心でゲストを笑顔にした第21回春日丘フェスティバル。この経験をもとに、道徳の授業で『春日丘中学校の伝統』について考え、議論しました。物語の舞台は、北海道にある中学校。広いグラウンドでサッカーがしたい!という思いからサッカー部を創ろうとします。しかしグラウンドの小石を拾い、トンボをかけ、その合間にパス練習…。思うようにサッカーができず、部員たちはバラバラに。一念発起(!)して練習に打ち込み、迎えた最後の試合では、負けたものの晴れ晴れとした気持ちで後輩たちに「任せたぞ」と言葉を残します。後輩たちに「任せた」ものとは?私たちに置きかえると、21年間も、なぜフェスティバルは受け継がれてきたのでしょうか?みんなが「今、大切にしているもの」が卒業した後にも伝え継がれる学校を作っていくみたいです。



『ワークシートより（授業の感想）』

- ・部活動で大きな声でいさつすることは1年のときから受け継がれているから、これからもずっとつなげていきたい。伝統は簡単に終わらせられないから大変だし難しいなと思った。
- ・生徒会でやってきた活動にどんどん新しいアイディアを生み出して、若い人たちに春日丘をもっとよくしていってほしい!見えないところでたくさんのが受け継がれていると感じた。
- ・2年半、部活動をしてきて先輩の思いをちゃんと受け継いでこられたのかわからない。今も部のため、自分のためにもうちょっとやっておけばよかったと後悔している。でも、気持ちは後輩に伝わっていると確信しているので、何事にも一生懸命に取りくむ気持ちはなくしてほしくない。